

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	子ども療育ステーションここふわ 真志喜		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日 ～ 2026年 2月 20日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10 (回答者数)	10
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日 ～ 2026年 2月 20日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫している	プログラム以外でも身辺整理、掃除、血洗い、調理、洗濯などを行う機会を設け、将来の自立に向けた生活スキルの向上を図っています。ご本人、保護者様からの要望を聞きながら必要に応じた「出来ること」を増やしていきます。 「出来た」を増やして本人の自信を身につけ、自己肯定感を高めていけるよう支援を行います。	身につけたスキルを周囲の方に見てもらったり、お披露目する場をつくり、積極性や本人の自信につながるような取り組みを行っていく予定です。
2	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	モニタリングや送迎時の申し送りにて、ご家庭での困り感などを聞き取り支援内容に反映させていただいています。プログラムの内容によっては本来の利用日ではない利用者にも声をかけ個々にあった活動の提供や参加ができるように心がけています。	職員間、保護者の方とより連携できるように様々な方法でコミュニケーションをとっていきます。利用児童、ご家族の不安や、困り感を相談しやすい体制を強化していきたいと思っています。
3	事業所の支援に満足していますか。	プログラムに飽きてしまわないように様々な内容を考案し、保護者参加型の行事を増やしたりとマンネリ化しないように工夫しています。子供たちのやりたいことを聞き取り、意見やアイデアを尊重しながらできるだけプログラムに反映出来るようにしています。	プログラム内容の構築だけではなく、ニーズに沿った支援が提供できるように職員の資質向上も行っていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	月に1度程度、様々な状況を考えて訓練を行っており支援記録に記載したり申し送りなどで共有をしていますが、ご家族皆様への周知徹底には至っていないと思います。	必要なことがきちんと伝わるように情報発信のやり方を見直していきます。お知らせを作成したり、事業所での取り組み内容を具体的にお知らせする工夫を行います
2	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	プログラムの充実を図ると同時に活動に使用する備品等が多くなってしまっています。収納場所にも限りがあるため室内の美化と整理整頓が必要となっています。	室内の大きさが限られているので、物品の収納場所や配置等を変更してスペースをつくり、子どもたちがより安全に広々と活動出来るよう工夫していきます。
3	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	利用者（ご家族）それぞれのニーズが様々であり関係機関との連携方法に関しての情報収集が不足している為、こういった形で交流をとることが必要かの具体的案がなかなか見つからない現状です。	ご要望に合わせて近隣の施設や園、地域の方々と楽しみながら関われる機会を検討していきます。その他関係機関との関わり幅も広げていくために、参加の場には積極的に関わっていききたいと思います。